

十勝産小豆を使用したあんこで、一万食分の「おしろこ」の炊き出しを実施。



代表理事
梶原 雅仁

北海道東部農産物移輸出協同組合

北海道
帯広市西21条南1丁目4番地

1955年(昭和30年)設立
Tel 0155-37-2777

《事業概要》 雑穀流通業者による組合

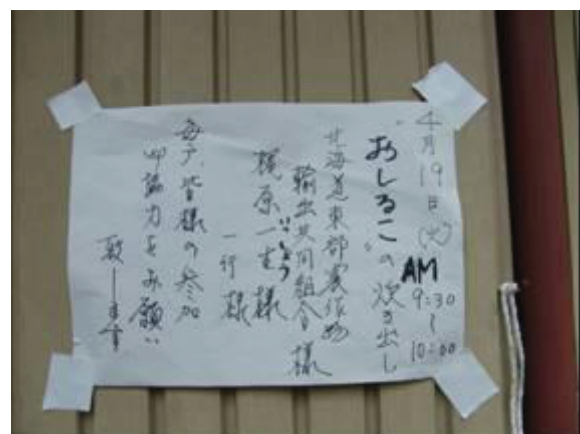
《被災地の復旧・復興に向けた取組》

雑穀流通業者である同組合は、東日本大震災で被害を受けた宮城県を訪れ、十勝産小豆を使用したあんこで一萬食分のおしろこの炊き出しを実施した。東北地方は豆の消費が多く、組合の加盟社は直接、間接的に顧客を持っており、古くからのつながりがある。

同組合による「災害復興支援隊」8名は4月13日から21日の9日間、気仙沼市・石巻市・南三陸町・女川町を中心に、23箇所で行った。「震災から1ヶ月経過した当時でも、炊き出しが一度も来ていない避難所がたくさんあると聞き、当初の予定を切り替え、現地の人を聞き、どんな小さな避難所だろうと、道が険しかろうと一人でも多くの人にお汁粉を食べてもらいたかった」という想いでメンバー全員が使命感に奮い立ち、心を一つに活動し、行く先々で、おしろこが喜ばれ豆屋で良かったと思った。



災害復興支援隊メンバー



手書きによる炊き出しの案内紙

《被災地の一層の復旧・復興に向けたメッセージ》

直接現地に赴く事だけが、支援ではないと思います。何か助けになりたいと思う、その気持ちを伝えるだけでも良い。この大震災を風化させず、復興に掛かる時間を現地と共有していけたらと思います。